

## 第二次未来構想の具体的事業について

◎徳弘 慎治<sup>1)</sup>  
高知大学医学部附属病院<sup>1)</sup>

我が国の医療環境は、人口の自然減にともなう医療需要及び労働人口の減少に対応するために、ドラステックな変化を達成することが求められています。2040年の医療提供体制の整備を見据え、地域医療構想、医師・医療従事者の働き方改革、医師偏在対策のいわゆる「三位一体の改革」に取り組む現状において、臨床検査技師を含むメディカルスタッフには、病院再編及び医師及び看護師等の働き方改革への対応による職場環境変化が発生します。加えて、現代医療におけるデジタルトランスフォーメーション推進の潮流は待ったなしの現状であることから、従前と同じ働き方が継続する可能性は皆無といえます。したがって、我々メディカルスタッフは、あらたな時代に適合すべく、これまでの働き方を継承するとともに、「臨床以外のフィールド」を含め、より時代に適合した職能の在り方を模索していかねばならないと考えます。

これらのことを踏まえ、日本臨床衛生検査技師会においては、2040年を見据えた「第二次未来構想」を策定することとし、これまでの累々たる知見を創生されてきた世代と、デジタルネイティブ世代とをつなぐ役割を果たすべき「ミレニアル世代」を中心にWGを結成しました。本WGは、令和5年3月25日付の諮問を受け、「検査で社会を変えたい」をビジョンとして、数回の議論を行ったのち、令和5年8月31日付で答申を提出しました。

本構想は、それぞれの専門的な知識を身に着けた臨床検査技師が集まる当会が、部門分野の枠にとらわれず、時代の変化に応じ、柔軟かつ多様性をもって、会員個々の自由な職域を選択し、提供できる職能団体として先導するためのものです。構想策定にあたっては、「内閣府が提案しているムーンショット目標」に倣って、臨床検査の未来構想の基本コンセプトを創造することを意識しました。

具体的には、社会、環境及び経済の3領域を対象として、「急進的イノベーションで少子高齢化時代を切り拓く。」、「地球環境を回復させながら都市文明を発展させる。」及び「サイエンスとテクノロジーでフロンティアを開拓する。」という目標を設定し、13の事業展開を行うことを盛り込んでいます。

本WGでは、事業優先度を考慮し、上記13の事業展開のうち、まずは「多様性および継続性のある医療社会にするための研修事業」、「医師と患者の橋渡しができる臨床検査技師育成 - OTC 検査対応を中心に-」、「医療におけるコーディネーターとしての臨床検査技師の創出」及び「クラウドファンディングによる日臨技と産学連携による移動検査室構想」の4事業を展開していく予定です。これらの事業展開の中で、内外より有識者をお呼びしての講演会を開催するとともに、次代を担う若い人達が集い、自由に意見を述べる機会を企画していく予定です。本日臨技企画においては、答申を基にWGにおいて策定された、「検査で社会を変える」ための戦略である具体的事業の概要について紹介することで、当該未来構想ならびに具体的事業等について闊達な議論をいただく機会を賜りたいと考えています。

連絡先：088-880-2466